

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072600446		
法人名	有限会社 たじま		
事業所名	グループホーム かやの木		
所在地	群馬県吾妻郡中之条町大字中之条町1775-1		
自己評価作成日	令和4年10月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	tajima.h@crest.ocn.ne.jp
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号
訪問調査日	令和4年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が高齢者のため、入居者のペースで安心して、落ち着いた生活が送れるよう主治医と連携を取りながら健康管理を行い、楽しく過ごしていただけるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で外出が厳しくなった時間を、利用者との関わりに新たな工夫点を見つけ出し実践に繋がった。食事は利用者と一緒に希望を聞きながら食材を注文し、冷蔵庫の中身を見ながら食事作りを行い、より家庭的になっている。また、おやつにはヨーグルトを提供しているが、アイスクリームやプリン、果物等いろいろトッピングを工夫しており、利用者の楽しみになっている。利用者とのコミュニケーションも増え、利用者からの積極的な発言も多くなり、洗濯物干しやたみ・猫のエサやりなどできる事をお願いすることに繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業者の理念を掲示板に貼り、職員がいつでも見て確認し、実践できるようにしています	理念の実践に向け管理者は職員に説明をし、日々の業務の中で伝え、家庭的な雰囲気と優しい声掛けや接し方ができているか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年と同様に新型コロナの影響で地域との交流はできていません	現在は特に情報が入ってこないため、職員が把握していることを、利用者との会話に取り入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口であることを機会があった時には伝えるようにしています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナのため、施設関係者で話し合いを行い、外部の委員には書面にて報告しています	2か月に1度法人内関係者で会議を開き、書面にして報告書を作成し、参加予定者や家族に配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と利用者情報の連絡、相談をしています	必要事項を行政担当者に報告している。介護保険の更新の代行と認定調査の立ち合いも行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の中で身体拘束のない支援について資料を参考に施設内で話し合いを行っています	玄関は昼間は自由に出入りができる。身体拘束の無い支援をしており、スピーチロックも職員相互で注意しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会の中で学び、虐待行為が起らないよう取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新型コロナの影響で研修会に参加はしていないが、資料を基に理解を深めるようしています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居などの際に家族に説明し、理解して頂いてから契約書に署名、捺印後、交付させて頂いています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望がありましたら、いつでもご連絡いただくよう入居時に説明しています	家族には面会時や電話で意見や要望を聴いている。面会状況や利用者の健康状態の問い合わせがある。行事の写真を送っている。利用者との会話が増え、要望も多くなり支援に生かしている。	面会制限による家族の不安に対応するため、利用者の状況を定期的に具体的に知らせる手段も検討してはいるかがか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを定期的に行い、意見交換の時間を設けています	職員の意見交換は申し送りの際に行い、管理者は日常的に職員からの相談や意見も聞くようにしている。毎週法人代表者と管理者は話し合いを行い、相談や報告をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者には就業環境の整備に努力していただいています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者には職員を育てる取り組みに努力していただいています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年と同様に新型コロナの影響で勉強会や交流は持っていませんが、ネットワークなどで情報を得ています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際にアセスメントを行うなかで、本人の要望をお聞きし、安心した生活が送れるように努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時等ご家族とお話をさせていただく中で、困ったこと不安なことなどをお聞きし、理解するよう努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、必要なサービスを見極め理解するよう努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の不安や苦しみ、喜びを知ることにより、関係を築いています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナの影響で、面会が制限されてますが、ガラス越しに、元気なお顔を見ていただいたり、お電話にて日頃の様子を伝えさせていただいています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係継続に努めていますが、家族等の面会が少ないため、電話等で関係が継続できるようにしています	利用者の馴染みの物や必要な物、趣味の物を持参してもらっている。家族からの電話を取り次いだり、感染防止対策を取って家族面会を実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話には特に耳を傾け、問題になる行動や会話等があった時にはすみやかに対応し、楽しく生活が出来るように心掛けています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談、支援に努めています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の方より入居時、面会時にゆっくり話を伺い、出来るだけ希望に添えるように努めています。困難な場合には検討を続けていきます	家族には電話で要望を確認している。利用者とのゆっくり過ごす時間や声掛けによる刺激が増えたことで、意見も出やすくなっている。日々の様子を見守りながら意向を引き出すようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを行いながら生活歴、馴染みの暮らし方等の把握に努め、継続できるものは引き続き継続できるようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックをし、健康状態を記録、情報を共有しています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にある担当者会議、往診時、受診時などに話し合いの場を設けて、介護計画の作成をしています	家族には電話で確認や説明を行い、サインは利用者本人か代筆で行う承認を受けている。モニタリングは毎月行い、計画見直しの際に担当者会議を開いている。見直し期間を3か月に戻す方向である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録用紙への記録や業務日誌の記録を行って情報の共有をし、変化があった時には見直しをしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に変化があった場合、支援方法の検討をしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナのため施設内でレクリエーション等を行い、楽しく過せるように取り組んでいます		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的診察、体調の変化があった時の受診、利用者又は家族の希望時にはかかりつけ医の受診を行っています	隣接の法人内の病院がかかりつけ医で、利用者の定期受診を支援している。必要時の往診も受けている。歯科は必要時に訪問してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する病院の看護師へ相談し、必要な場合はすぐに受診につなげています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	隣接する病院との連携を行い、医師からの入退院時の状態説明時には職員も同席させて頂き、今後の方針を話し合っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的訪問診察や体調の変化が見られた場合は、受診し医師からの指示を共有しています	体調の変化があった際には受診を支援し、医師の判断・指示で入院になることを説明している。看取り支援は行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止委員会にて事例を検討し、原因対応について情報を共有しています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設での防災訓練を年2回実施し、避難方法について訓練をしています	年2回昼と夜を想定した総合訓練を実施している。近隣に訓練を実施することは伝えている。事業所内の備蓄は水・乾物・缶詰を、他は隣接病院からの支援を期待している。	総合訓練の反省を生かした自主訓練を実践してほしい。備蓄について病院の物資の確認を行い、必要に応じた見直しをしてはいかがか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や認知症の人への接し方などの資料を参考にしながら、その人に合った言葉かけや態度で接するようにしています	個人のペースを尊重し、ゆったりした関わりを大事にしている。異性介助になることは説明しているが、利用者からの返事は少ない。	利用者の反応を確認しながら、異性介助の際には、声掛けを続けていただきたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中から思いや希望を汲み取るようにしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が話し合いをし、希望に添った支援が出来るように心掛けています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者のご希望に沿ったカットをしていただいています その人らしい装いができるよう支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のあるメニューを心掛けながら、好みの食事を提供しています	利用者と一緒に生協や商店のカatalogを見ながら注文の品物を決めており、献立は冷蔵庫の食材を見ながらその日に決めている。季節の食材を使いデザートやおやつを工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接する医療機関や管理栄養士にも相談しながら、その人に合った食事や水分摂取に努めています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの用意をし、声掛けや歯磨きの介助、朝食後夕食後は義歯洗浄を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ介助、誘導を行っています。また行動やしぐさ、様子などから排便を理解し、随時の介助、誘導を行っています	トイレでの排泄を基本に支援している。利用者の状況にあわせた支援をしており、夜間はオムツやポータブルトイレを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認や便意がある時の様子を把握しスムーズな排便がみられるようにしています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴介助は予定を立てて行っていますが、希望等確認し、気分の転換を図りながら支援しています	入浴は月曜日と木曜日に支援している。ゆずやバラの花びらを浮かべることもある。入浴準備を個人でしている利用者もいる。	入浴を楽しみにしている利用者にとっての臨機応変な入浴支援について、職員で話し合ってみてはいかがか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望によりテレビやラジオを聴くなどゆっくりと休息できるように支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を理解し、状態に変化があった時には医師、薬剤師に相談をしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみの手伝い、ぬり絵や折り紙などしながら、好きな事や得意な事を生活の中に取り入れています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナのため、外出行事は困難となっているので、同系列の施設内への散歩等を行っています	外出行事は組めないが、系列のグループホームへ散歩に出かけバラを見たり、玄関前の庭で外気浴をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に管理をお願いしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要な場合は職員が対応しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間の整理整頓に努めています。音楽、テレビの音量に注意しています。季節感を感じられる飾り付けを心掛けています	館内からは外の様子がうかがえ、台所のある共有空間やふろ場・玄関で換気を行っている。見やすい日めくりカレンダーや利用者の作品を掲示している。廊下に椅子やソファを置いて一人になれる場所を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、玄関先、廊下にソファやテーブル等を用意して、いつでも利用できるようにしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は利用者の暮らしやすいようにし、希望があれば写真等を飾っています	居室にはベット・エアコン・洗面台・寝具が揃っている。肌掛けや毛布、テレビやカセットデッキ、使い慣れた日用品、孫の作った俳句を持参している利用者もいる。猫と過ごす利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人に適した居室を用意し、気持ちよく生活が送れるようにしています		